

積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和3年11月26日 No. 36 文責：佐野紳二

今日は何の日？ ちょっと気になったので調べてみました

23日（勤労感謝の日）の新聞に何気なく目を通してしていると、「結婚」の欄にずいぶんたくさんの方が掲載されていました。「何でだろう？」と首をかしげていると、うちの奥さんが「昨日がいい夫婦の日（11月22日）だったからじゃない」と教えてくれました。なるほど！です。

日本には「国民の祝日に関する法律」により年間で16日の祝日がありますが、それ以外にも「8月3日は鼻の日」とか、「11月11日はポッキーの日・電池の日（十一がプラスとマイナスに見えるから?!）」なんていう具合に、「〇〇の日」というのが結構たくさんあります。いったいどれくらいの「〇〇の日」があって、だれが決めているのかがちょっと気になったので、調べてみました。

「〇〇の日」ですが、日本には何種類かの「〇〇の日」があるようです。



1 国または国の機関が定めた日

勤労感謝の日やこどもの日などの国民の祝日のほかに、時の記念日（6月10日）や防災の日（9月1日）などがこれに当たります。50日ほどあるようです。

2 国際連合等の機関が定めた日

「世界野生生物の日（3月3日）」「世界保健デー（4月7日）」「世界環境デー（6月5日）」等

3 二十四節季

日本には季節の移り変わりを表す言葉として、春夏秋冬をさらに6つに分けた呼び方があります。節分や立春、夏至、冬至、啓蟄、秋分、白露などがこれに当たります。

4 外国で定められている記念日が日本に入ってきたもの

古くはクリスマスやバレンタインデー、比較的新しいものではハロウィンなどでしょうか。外国に由来のある記念日が、日本で定着したものがたくさんあります。

5 一般社団法人日本記念日協会に登録申請をし、認定された日

上記の協会に登録申請をすることにより、認められた日を「〇〇の日」としているそうです。

「ニキビの日（5月21日）」「ヒートテックの日（11月10日）」「いい尿の日（11月24日）」等

6 一般社団法人日本記念日評議会に登録申請をし、認定された日

上記の評議会に登録申請をすることにより、認められた日を「〇〇の日」としているそうです。

「ゾウとサイの日（10月4日）」「失恋の日（4月20日）」「アフロの日（11月26日）」等

他にも、学校創立記念日や家族の誕生日など、パーソナルな記念日を含めると、実に多くの「〇〇の日」があることが分かりました。これらの中には、私たちの暮らしに深く根付いているものもあれば、そうとは言えないものもあるようです。日本人は「語呂合わせ」が得意（好き）なので、こうした「〇〇の日」がたくさんあるのかも知れませんね。

最近では、インターネットでも「今日は何の日」と検索すると、たくさんの「〇〇の日」が出てきます。自分の誕生日は何の日か、なんて、たまには調べてみるのも楽しいかも知れませんね。

☆彡 先に挙げた日本記念日協会に登録されている記念日はいつが多いかを調べてみると、ベスト3は8月8日、10月10日、11月11日の3日なのだそうです。語呂がよかったり、見た目がよかったりするという理由のようですが…

☆彡 毎年学校がお休みになる県民の日（11月20日）と学校創立記念日（12月12日）はそれぞれ土曜日と日曜日なので、取り立ててお休みという日ではありません。ちょっと残念、かな？

先日、この学校通信であいさつのことを書きましたが、そのときにちょっと素敵なエッセイを見つけました。なかなか掲載する機会がなかったのですが、今日はちょっとスペースに余裕があるので紹介します。

職場より、バスで帰っていた夕暮れのある日のこと。

私も、乗車しているお客さんもみんな、1日の疲れが出た表情でバスにゆられていた。

あるバス停で、部活帰りだろうか、乗っていた小学5年生くらいの少年がバスを降りようとした。

そのとき、少年は運転手さんに向かい、大きなハキハキとした声で、

「ありがとうございました」

とあいさつして降りた。

ポーッとバスにゆられていた私は、少々びっくりして乗降口に目を向けた。

「ああ、あの子は礼儀正しいなあ。偉いなあ」と感心していた。

すると、少年はバスを降りてからもなお、くるりところらを向き、一段と大きな声で、

「ありがとうございました！」

と再度、深々と頭を下げたのだった。

正直驚いた。

バスのお客さんもみんな、少年を見た。

運転手さんも思わずニコリし、

「ありがとう、暗いから気をつけて帰りいよ」

と、マイクで返事をされた。

運転手さんは、すごく嬉しそうな表情だ。

その瞬間、疲れた表情のみんなの顔がニコリ和いだ。

どんよりと疲れが充満していたバスの中が、一瞬で温かな気持ちに包まれたのが感じられた。

本当に数秒の出来事。

しかし私は、少年にすごく元気をもらったとともに、日頃忘れていた純粹さ、感謝の気持ちを思い知らされた。

「あいさつ」は大事だ、「感謝」は大事だと、何百回、何千回と聞かされてきた。

でも、「あいさつ」や「感謝」が、ここまでキラキラ輝くような力をもっていることを新鮮に実感できたのは、もしかしたら初めてだったかもしれない。

名も知らぬ少年が、とても大切なことを教えてくれた。

ほんとうにありがとう。

《熊本県 川崎梓（25歳）》

参考引用出典：『涙がとまらないすてきな物語』河出書房新社



今週も来週も、学校のようにすについてお伝えしたいことがたくさんあった（ある）ので、増刊号的に金曜日の発行となりました。次号は楯形スタンダードや選挙運動についてお伝えしようと思っています。